

研究構想図

今日的教育課題

- ・ 社会の変化に対応した総合的な力（基礎的な知識及び技能、思考力、判断力、表現力、主体性や自己の確立、豊かな人間性等）
- ・ 生きる力
- ・ 体験と言語の重視
- ・ 基礎・基本の充実
- ・ 「知」の更新（生きてはたらく知）
- ・ 主体的・対話的で深い学び

学校教育目標

- ◎根気よく学ぶ子
- 明るく元気な子
- なかよく助け合う子

新学習指導要領

外国語活動

○外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

外国語

○外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

研究主題

『外国語に親しみ、学んだことを活用しながらコミュニケーションをとろうとする児童の育成』

～「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点から～

研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点から、授業づくりをしていくことで以下のような児童が育つだろう。

- ① 学ぶことに必然性をもたせる。そのことで、問題解決の意識をもち、その問題を解決するための見通しをもとうとする児童が育つだろう。
- ② 外国語をつかう機会を広げることで、学んだことを活用し、外国語を通してコミュニケーションがとれた喜びを知ること、さらにすすんで学ぼうとする児童が育つだろう。
- ③ 振り返りを充実させることにより、学んだことをつなぎ、新たな価値や知識を獲得できる児童が育つだろう。

高学年

既習事項を活用し、コミュニケーションがとれる児童

中学年

活動を楽しみながら、語彙や表現を増やし、話すこと・聞くことの基礎・基本を身に付けた児童

低学年

英語に親しみ、楽しんで活動できる児童

目指す児童像

- ・ 素直で、教えたことを実践しようとする児童が多い。
- ・ あいさつがしっかりとできる
- ・ 基礎学力に課題がある
- ・ 自己肯定感が低い
- ・ コミュニケーションに課題
- ・ 語彙力に課題
- ・ 経験・体験学習の不足
- ・ 学力の二極化
- ・ 「書く」ことへの抵抗感
- ・ 既習が生かされない

全教科に関わること

- ・ 教師によって指導力に差がある
 - ・ 教師の喋りすぎ、教えすぎ
 - ・ 指導法が確立されていないことへの不安
 - ・ 教員同士、学び合う風土がある
- 主に、外国語の授業に関わること
- ・ AET 中心の授業展開になりがち
 - ・ HRT になったときの指導法
 - ・ AET との連携不足